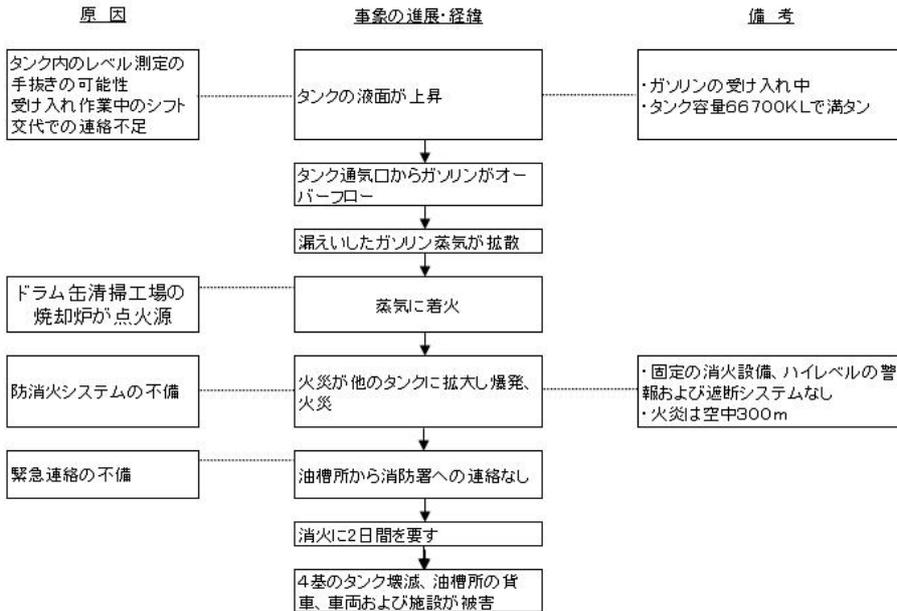




油槽所のガソリンタンクがオーバーフローし火災

事象進展図

00243	油槽所のガソリンタンクがオーバーフローし火災
発災年月日	1983/1/6
装置	ガソリンタンク
運転状況	ルーチン作業中
特徴	ガソリンの受け入れ中のタンクオーバーフローによる漏洩火災



再発防止対策

タンクの過充填を予防するために、
 (1)タンクに受け入れしているときはレベルの確認を頻繁に行う。
 (2)タンクのレベルが高くなったときの警報、および連動して受け入れが自動停止するシステムを設ける。

安全専門家コメント

1. タンクにガソリンを受け入れしているのにレベルの確認をしていない。火災になっているのに消防署へ連絡をしていない。このような組織があることを認識したいし、このような組織となる怖さを事例から学びたい。
 組織ではそこで仕事をする人が、自然に感じ取って身につけていくものがある。仕事に向かう気迫・規律、責任感、指示報告連絡などがそれである。
 それらは、他の企業で同じ仕事をしている職場、同じ企業でも他の事業所を見る機会を持つことにより、自分の職場と比較できる。比較することによって何がそれらの要素をつくっているのかを追究したい。

2. タンクの操業を預かるものにとってタンク内容物がどれ程入っているかを確認すると言う行為は基本の基である。ましてや受け入れ中であることを認識している状況の中では当たり前のことである。他の要因があってそちらに気がまわらなかったと善意に解釈するとヒューマンファクターの観点からの対策が必要になってくる。液レベルは通常、検出端の異なる2系統の計装機器で把握される。一つは浮きを使った計装で液の高さを検出し、液レベルを常時監視し、液の単位時間当たりの増減を瞬時に表示してくれる。もう一つは、浮きとは別系統で危険液位になったらアラームで教えてくれるものである。輻射した作業が行われる現場ではこのような設備的な対策を取ることが必要である。もっとも危険を知らせても人ならそれを回避する行動もしない職場風土があったとしたら論外である。

引き金事象発生の原因

- ・シフトの交替での連絡不備
- ・手順に定められたタンク内のレベルと温度の測定未実施
- ・タンクレベル異常の警報なし

事故の引き金事象

タンク通気口からのガソリンのオーバーフロー

事故に関係した直接・間接要因

《人的要因》
 誤操作・不作為など
 作業確認不足・ミス
 《管理・運営要因》
 設計指針・技術基準類の不備・不十分



油槽所のガソリンタンクがオーバーフローし火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

・ Report on the incident at the Texaco Company ' s Newark storage facility 7th January 1983, Loss Prevention Bulletin, No.188, P.10-13, 2006

▶ 添付資料

 [タンク配置図](#) (40 KB)

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 貯蔵系

🔑 浮屋根タンク > FRT, フローティングルーフタンク, 浮き屋根タンク

▶ 関連情報